

### 狂言学習：お稽古 3 日目《NO.3》



狂言学習の3日目です。山口先生にお稽古をつけていただけるのも、残りわずかです。1回1回の稽古を大切に、有意義な時間にしていきたいです。

平庄狂言は、リレー式でつないでいくのが特徴です。『附子』チームと『柿山伏』チームに分かれて、それぞれがチームワークを大切に、表現をつないでいきます。稽古では、自分のところだけを稽古するのではなく、自分の前に演じている人がいるから、今自分が演じられるのだということ、そして、自分が演じるから後の人が演じられるのだということを意識しながら、稽古に臨んでほしいと思います。前の人、山口先生に指導していただいていることは、自分にも関係があるのだと自分事として捉えながら、学習に参加してほしいと思います。友だちの演技の中に、自分の表現を高めるポイントがたくさんあります。そのポイントの一つでも多く見つけ、自分のものにしてほしいと思います。



睨み付けるようにして、隙にずっと『附子』をとる。次郎冠者も、本当に『附子』がほしいと思って取りに行くと、追いかけて合い（取り合い）になる。「いや。」は、間を取る。大事なものを押さえる時は、手が先に出るはず。引っ張り合いをする時は、『附子』を体に寄せて引っ張る。引っ張られる時は、腕を伸ばす。引っ張られる時の歩き方は、ふだんの歩き方とは違う。

演ずる人は、そこに至るまでのそれぞれの役割がある。最初の場面から始まる。自分の場面は、自分だけのものではない。今までの演じ手がちゃんとやってきたから今がある。自分の場面で、今までの演技をつぶしてしまうこともあり得る。

ものの見方が甘い！場面の切り取りはダメ！一つの役割をチームで果たしている。自分がどのように見えているかを、しっかりと考えることが大事です。



前の演技をつなぎましょう。

⊕「それならば、兩人仲良くして食べよう。」は、争いを治めることばとして、意識して話すのがポイント。

『附子』は美味しいもの！美味しそうに食べることがポイント。美味しいから夢中になって食べている様子を表現する。楽しそうに！美味しそうに！

ここは、太郎冠者が次郎冠者を引っ張る感じを表現する。セリフを誰に言っているのかを意識して観客に伝えるようにする。説明は、観ている人に伝わるように説明する。

恥ずかしさは、捨てよう！



物を指す時は、指先をしっかり伸ばして、指の方向と目とを合わせる。  
太郎冠者が頑張ることによって、次郎冠者の演技が変わる。太郎冠者の役割は大きい。



座る時は、主人が通る位置を考えて座るようにする。  
演じ手は、常に、前の演技を引き継いでいることを念頭に置いて演ずる。  
前の演技にたし算をしていく。  
“思いをつなぐ”  
前の人から受け継いで、自分の演技を次の人につなぐ意識を常にもつ。



太郎冠者は、ゆっくりはっきり言うことを心がけよう。主人は、姿勢も意識しよう。

## 自主稽古を頑張っています



業間の休み時間や昼休みを使って、自主稽古をしている人がいます。  
頑張っています。



読み合わせや動きの確認も行っています。

